

デザインレビューの勧め

～設計工程の後戻りを最小限に抑えるには～

2007/11/14(WED.)

東京計器工業株式会社
浅井 剛



プロジェクトマネージャの想い

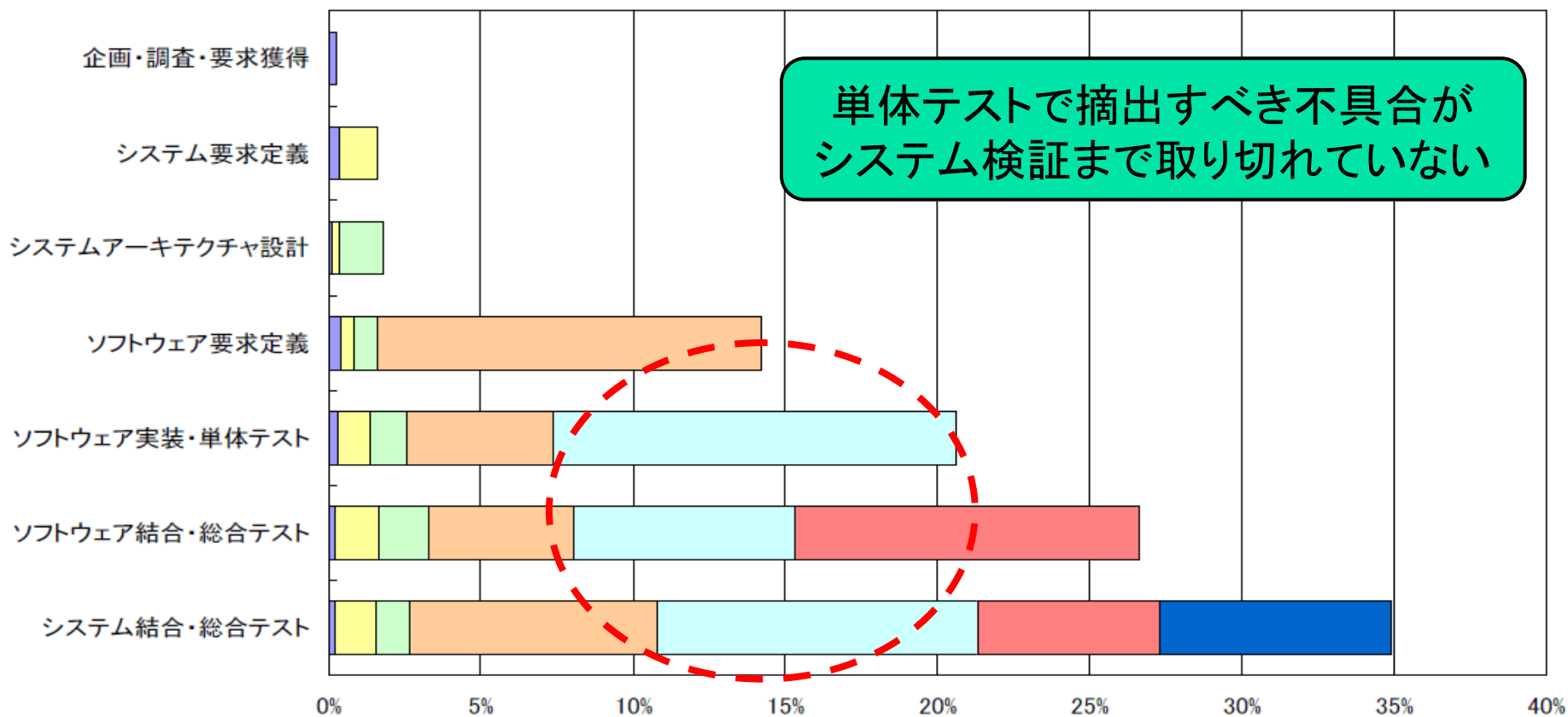
自工程の不具合を以降へ持ち越さず
後戻りによる工程遅延を最小限に抑えたい

- 設計工程の不具合が持ち越されると
 - 見落としした不具合を仕様として設計が進む
- 検証工程の不具合が持ち越されると
 - 検証範囲が広がるので、不具合箇所の特定に余計な時間がかかる

システムの大規模化と共に検証工程が5割以上に

不具合発生件数比率

■ 企画・調査・要求獲得 ■ システム要求定義 ■ システムアーキテクチャ設計 ■ ソフトウェア要求定義
■ ソフトウェア実装・単体テスト ■ ソフトウェア結合・総合テスト ■ システム結合・総合テスト



単体テストで摘出すべき不具合が
システム検証まで取り切れていない



デザインレビューとは

- 設計不良の6～7割が担当者の単純なミスという経験則
 - 仕様の見落とし、誤理解、図面/文書作成ミス等
- 設計着手、途中、完了の各時点で3回以上実施
- **説明をきっかけに自分の考えを整理でき、自己再チェックがかけられる**
- **複数人によるクロスチェックにより、担当者個人の思い込み(勘違い)による不具合を抽出できる**

作業(設計)対象の大小とは無関係



デザインレビューを負担にしないために

- レビューのためだけの資料作りは極力しない
 - 内容が大切で体裁は不要
 - 設計書、工程管理表等、開発を進める上で作成したものをそのまま使用する
- レビューのための事前打合せもやらない
 - 討議資料が全てあるかは管理者責任でチェック
 - 具体的な内容は担当者責任でチェック
 - 結果として担当者のスキルアップにつながる

設計過程で作成するドキュメントをうまく使うのがポイント